

2024年度 事業報告の概要



1-1. 2024年度の活動状況(主要アクション: 1/13)

10年戦略 主要アクション	2024年度活動状況 (表中の“●”は2024年度重点活動関連を示す)	備考
(1)自主規制の主体としての事業者意識向上の牽引	<ul style="list-style-type: none"> ○理事会等を通じたJANSIからのメッセージ発信 (理事会5回) ○事業者トップとの対話 (新任CEO1名/CNO3名と理事長の対話) ○JANSI幹部による発電所との直接対話 (新任発電所長4名) ○合同アセスメントの実施 (事業者とJANSIが協働で合同アセスメント) ○SR(連絡代表者)サイト訪問及び情報交換 (継続実施中) ○各種コンテンツを用いた発電所実務層への発信 (JANSI ACTIVITIES : 6回発行) ○福島第一(1F)事故の教訓反映および風化防止 (1F 事故教訓の講演と意見交換、1F教訓ビデオの有効活用、1F視察と意見交換) 	

JANSI ACTIVITIES (2024年度発行)		
5月号 (新10年戦略)	7月号 (WANO同等性行使)	9月号 (世界のエクセレンス調査)
11月号 (運転経験情報の共有と活用)	1月号 (SAT : 教育訓練への体系的なアプローチ)	3月号 (米国CAP*活動のベンチマーク (前編)) *CAP : 是正措置プログラム

(会員HPへ掲載)



1-1. 2024年度の活動状況(主要アクション:2/13)

10年戦略 主要アクション	2024年度活動状況 (表中の“●”は2024年度重点活動関連を示す)	備考
(2)安全文化醸成活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○安全文化現場診断 (5箇所：電力4、メーカ1) ○安全文化醸成活動の支援 (2024年度計画の全事業所 (特別会員12社、準特別会員20社) について安全文化アンケートを実施) ○安全文化現場診断の電力ピアの導入 (高浜、敦賀、JNFLに受入れ) ○JANSIピアレビューと安全文化現場診断のシンクロ化(適用のための検討と調整を開始) 	赤字記載は主要アクションの強化を図る戦略業務

実績 区分	過去3年間の安全文化現場診断の実績			2024年度 実績	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所、主要なプラントメーカー、燃料加工メーカーを対象とした安全文化現場診断を実施 (3~4年毎) ・2020年度から電力本店にもインタビュー範囲を拡大 ・特別会員・準特別会員を対象とした安全文化アンケートを実施(3年毎)
	2021年度	2022年度	2023年度		
原子力発電所 日本原燃	東通、大飯、志賀、女川、福島第一	美浜、島根、大間、福島第二、玄海	浜岡、泊、柏崎刈羽、東海	伊方、高浜、再処理施設	
プラントメーカー 燃料加工メーカー	東芝エネルギーシステムズ	三菱重工業	日立GENE (日立GEニュークリア・エナジー)	MNF(三菱原子燃料)	



1-1. 2024年度の活動状況(主要アクション:3/13)

10年戦略 主要アクション	2024年度活動状況 (表中の“●”は2024年度重点活動関連を示す)	備考
(3)高いパフォーマンスを維持・継続する組織有効性を見極めと展開	<ul style="list-style-type: none">○有効な組織の姿の作成 (組織有効性検討WG : 9回開催)○評価方法の策定、組織運営上の弱みの深掘○試運用の実施○本店レビュー情報の入手(WANO-CPR(本店レビュー)参加 : 四国、東北、中部、原電)	赤字記載は主要アクションの強化を図る戦略業務

JANSI-ORG GL-01-00

有効な組織の姿に関する ガイドライン (β版)

2025年4月

一般社団法人 原子力安全推進協会
安全基盤部

・本ガイドラインは、原子力発電所のパフォーマンスと安全性を常に高い次元で維持し、さらに改善していく文化を事業者組織が持つことを目的に、組織が重視すべき組織運営上の特徴について記載するものである。

(会員HPへ掲載)



1-1. 2024年度の活動状況(主要アクション:4/13)

10年戦略 主要アクション	2024年度活動状況 (表中の“●”は2024年度重点活動関連を示す)	備考
<p>(4)世界のエクセレンスの追求</p> <p>*1:リスクマネジメント *2:労働安全 *3:構成管理 *4:耐環境性能 *5:放射線防護 *6:火災防護</p>	<p>○世界のエクセレンスの把握 (世界のエクセレンスの情報収集、エクセレンスガイドラインの改訂等：運転、保守等9分野、安全性向上、技術基盤の活用)</p> <p>○世界のエクセレンスの展開 (JANSIプラットフォーム活用によるエクセレンスの普及及び自主的改善の促進等：パフォーマンス改善研修、実機体感研修、RM^{*1}実務検討会、SMS課題検討会(CAP実務者作業会、ヒューマンパフォーマンス向上研修、安全啓発ポスター)、チームパフォーマンス向上訓練支援、発電所の運転部門管理層との直接対話、ミッドループ運転情報連絡会、IS^{*2}検討会設置、CM^{*3}-WG、EQ^{*4}管理検討会、RP^{*5}検討会設置、FP^{*6}検討会、原子力防災訓練検討委員会、安全専門家会議等)</p>	

Dr.ジャン・シーのヒューマンファクター研究室 File No.43

エラーを引越す状況 ①

タイムプレッシャー

1 わかりましたっ! はい!

2 プレーン ON プレーン OFF

3 急がないと...

4 車が動いてます!! ドンッ!!

対策

1 急がず、確認!

2 急がず、確認!

3 シフトレバー

4 パーキングブレーキ

解説

どのような状況で起きる?

- ①緊急時
- ②ミスが重なると
- ③早く終わらせたい時
- ④早く終わらせたい時

どのような影響を受ける?

- ①シフトカット(手振)
- ②必要な作業や確認が抜け

どのように防ぐ?

- ①時間余裕のある計画の策定
- ②作業手順のひと呼吸(STAR, 挨拶呼吸など)
- ③急ぎ過ぎ、仲間からの助け

タイムプレッシャーがある場合は「時間には限りがない」と思い込んでしまうもの。必ずしも急いで、エラーが発生しやすくなる状況に気づき、それを回避・排除することでエラーを防止するんじ!

Dr.ジャン・シー

Dr.ジャン・シーのヒューマンファクター研究室 File No.44

エラーを引越す状況 ②

初めて(不慣れ)

1 運転席側

2 安全確認がとれていない

3 うーん 安全確認がとれていない

4 安全確認がとれていない

対策

1 安全確認がとれていない

2 安全確認がとれていない

3 安全確認がとれていない

4 安全確認がとれていない

解説

どのような状況で起きる?

- ①初めての作業
- ②慣れない作業
- ③慣れない作業
- ④慣れない作業

どのような影響を受ける?

- ①安全確認がとれない
- ②安全確認がとれない
- ③安全確認がとれない
- ④安全確認がとれない

どのように防ぐ?

- ①初めての作業(作業手順書)を活用する
- ②慣れない作業(作業手順書)を活用する
- ③慣れない作業(作業手順書)を活用する
- ④慣れない作業(作業手順書)を活用する

初めてや慣れない作業では、必ずリスクが高い。いつもと違う作業のときは、作業手順書の活用が重要。作業手順書がなくても、必ずしも急いで、エラーが発生しやすくなる状況に気づき、それを回避・排除することでエラーを防止するんじ!

Dr.ジャン・シー

Dr.ジャン・シーのヒューマンファクター研究室 File No.45

エラーを引越す状況 ③

変更

1 変更前の状態に慣れているから、変更後の状態に慣れない

2 変更後の状態に慣れているから、変更前の状態に慣れない

3 変更後の状態に慣れているから、変更前の状態に慣れない

4 変更後の状態に慣れているから、変更前の状態に慣れない

対策

1 変更後の状態に慣れているから、変更前の状態に慣れない

2 変更後の状態に慣れているから、変更前の状態に慣れない

3 変更後の状態に慣れているから、変更前の状態に慣れない

4 変更後の状態に慣れているから、変更前の状態に慣れない

解説

どのような状況で起きる?

- ①作業内容の変更
- ②作業環境の変更
- ③作業手順の変更
- ④作業手順の変更

どのような影響を受ける?

- ①作業内容の変更
- ②作業環境の変更
- ③作業手順の変更
- ④作業手順の変更

どのように防ぐ?

- ①作業内容の変更
- ②作業環境の変更
- ③作業手順の変更
- ④作業手順の変更

変更がある場合は、必ずしも急いで、エラーが発生しやすくなる状況に気づき、それを回避・排除することでエラーを防止するんじ!

Dr.ジャン・シー



1-1. 2024年度の活動状況(主要アクション:5/13)

10年戦略 主要アクション	2024年度活動状況 (表中の“●”は2024年度重点活動関連を示す)	備考
(5)質の高いピアレビューの効果的・効率的実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 安定的・継続的なJANSI PRの推進 (3プラント：柏崎・刈羽、泊(同等性行使)、高浜) ● PRの効果的・効率的実施 (WANO PRへの派遣、レビュー教育の年度計画に基づく訓練、PR間隔の適正化、同等性行使PRを実施：泊、継続性審査PRの調整：川内) ○ メーカーPRの継続実施 (3件：GNF-J、NDC、JAEA (核サ研)) 	赤字記載は主要アクションの強化を図る戦略業務

過去3年間のピアレビュー実績			2024年度 実績
2021年度	2022年度	2023年度	
女川、大飯、高浜、玄海	美浜、島根、泊、川内、東通	敦賀、志賀、浜岡	柏崎刈羽、泊、高浜

- ・JANSI発足(2012年)以降、36回(高浜含む)実施
- ・JANSI/WANOとの交互のピアレビューを実施
- ・泊ピアレビューについては、同等性を行行使しWANOに代わってJANSIがレビューを実施
- ・同等性の継続審査は、2025年度川内ピアレビューにて受審予定

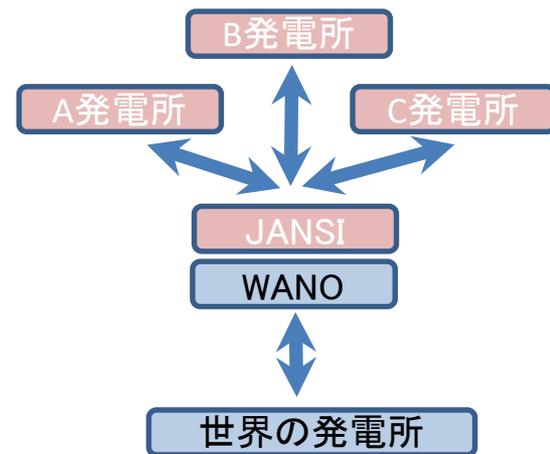


1-1. 2024年度の活動状況(主要アクション:6/13)

10年戦略 主要アクション	2024年度活動状況 (表中の“●”は2024年度重点活動関連を示す)	備考
(6)PMCM*の成熟と有効活用 *PMCM : Performance Monitoring and Continuous Monitoring	<ul style="list-style-type: none"> ● PMCM活動展開、ePM(強化型パフォーマンスモニタリング)との協働 (美浜、大飯、川内、伊方、高浜、玄海) ● PIの有効活用と改善 (新規PIの検討実施・取り纏め) ● 発電所パフォーマンス情報のタイムリーな共有 ● PMCMの有効性確認 (検討を継続中) 	赤字記載は主要アクションの強化を図る戦略業務

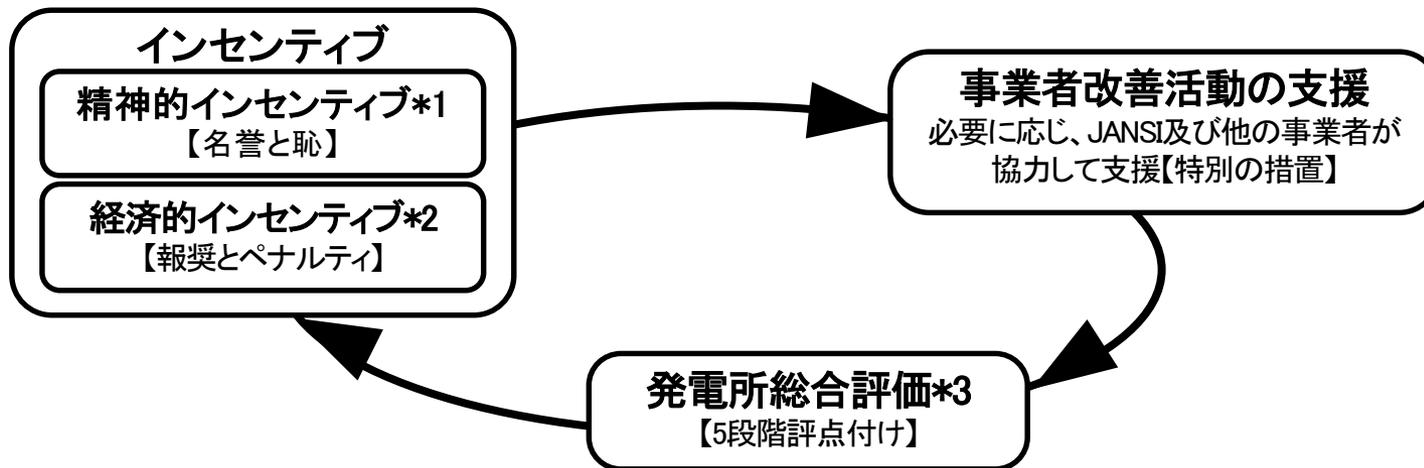
PMCMの具体的な内容

- ・発電所のパフォーマンス指標と因子指標を各発電所において、日常的に収集
 - ・各発電所のデータをJANSIに提供
- ↓
- ・指標等の傾向監視や発電所とのコミュニケーションを通して、ピアレビューとピアレビューの間を継続的にパフォーマンスを確認。
 - ・劣化傾向があれば早期に検知し、発電所の改善活動を支援
- ↓
- ・事業者が、自ら改善を推進
 - ・JANSIは、各分野の専門知見、経験に基づき総合的に評価、タイムリーに支援を提供
 - ・WANOと連携し、国際的視点も含め、効果的・効率的に発電所を支援



1-1. 2024年度の活動状況(主要アクション:7/13)

10年戦略 主要アクション	2024年度活動状況 (表中の“●”は2024年度重点活動関連を示す)	備考
(7)発電所総合評価の継続的改善	<ul style="list-style-type: none"> ○発電所総合評価の実施 ○発電所表彰（発電所表彰特別賞表彰：浜岡原子力発電所における「AIを用いた管理区域入域時の保護衣着用の確認」） ○総合評価システムの改善（発電所総合評価システムの運用変更：総合評点を廃止し、PR評点を元に事業者にインセンティブを与える。） 	赤字記載は主要アクションの強化を図る戦略業務

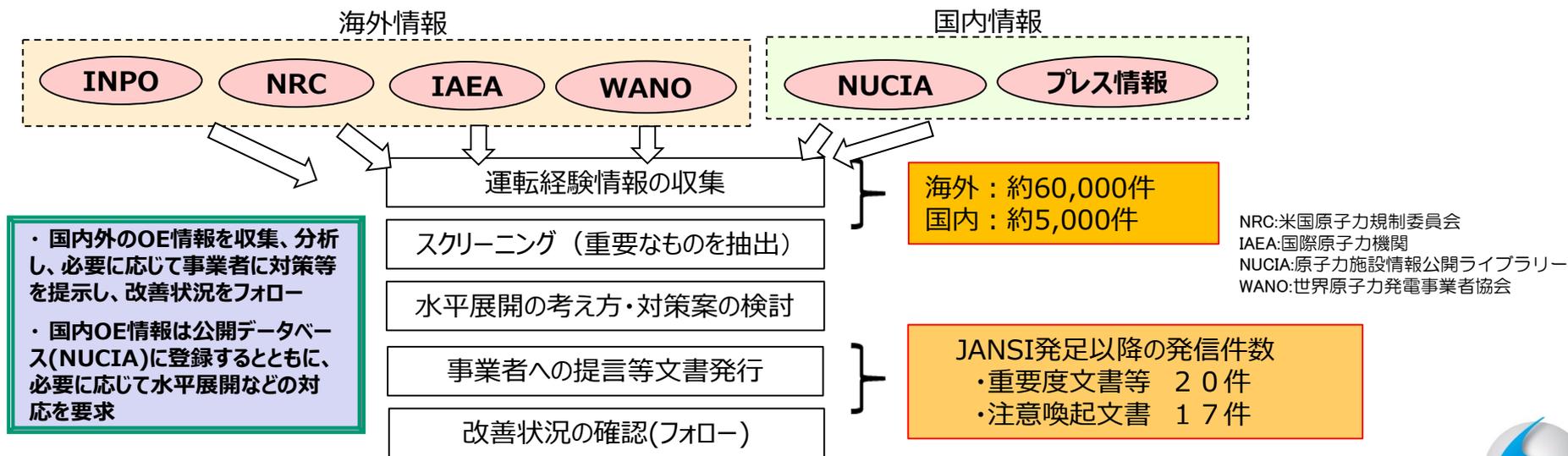


- (* 1) 全事業者CEOの前で、優秀な発電所を表彰
- (* 2) 総合評価結果に応じて、JANSI会費の割増引きを実施
- (* 3) 2025年度(2024年度の実績評価)から総合評点を廃止し、代わりに運転中発電所のPR評点を基に表彰や経済的インセンティブ付与を行う



1-1. 2024年度の活動状況(主要アクション:8/13)

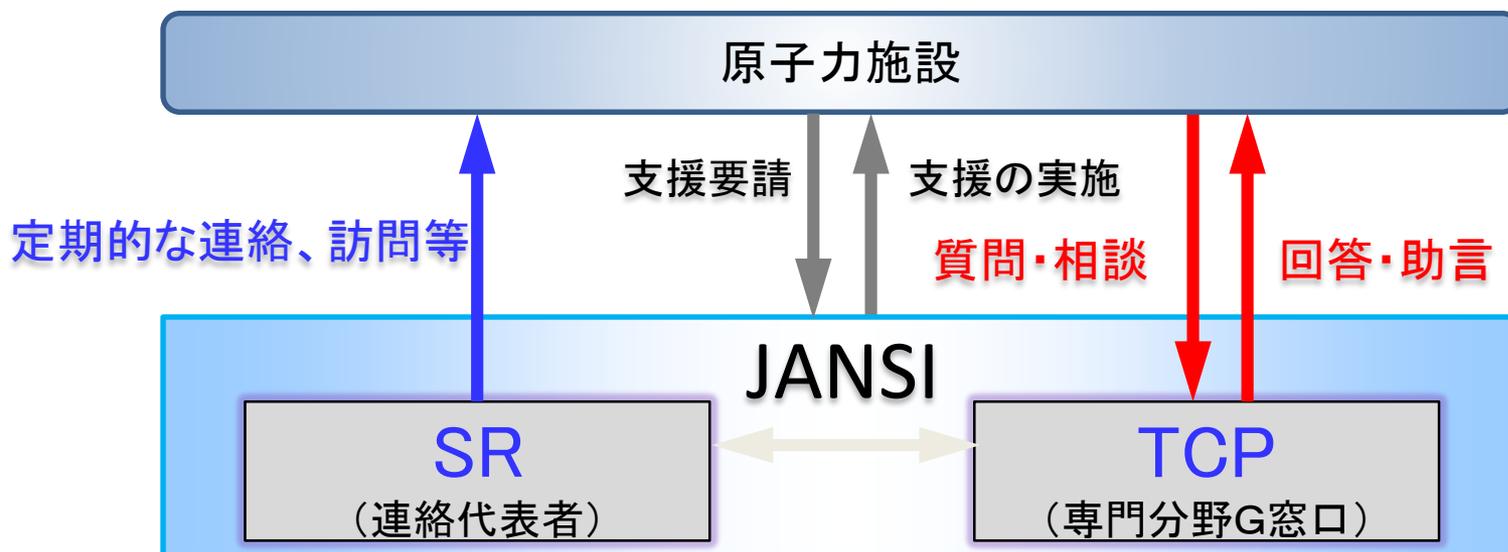
10年戦略 主要アクション	2024年度活動状況 (表中の“●”は2024年度重点活動関連を示す)	備考
(8) OE*活動の改善 *OE：運転経験	<p>○OE業務の重要性の再認識と体制の整備（海外OE情報を管理するシステムを改修、全般の利便性を向上。本システムを有効活用して、効果的・合理的な共有と活用を推進。） ※注意喚起文書：雨水流入事象および異常気象について（1/30発行）</p> <p>○OE情報分析の効果的・効率的運用の整備（評価手法の改善を継続し、OE活動の劣化傾向有無の確認を実施・報告。OE-PI指標は、データ拡充、改修の検討継続、プロセスに特化した指標の導入検討。）</p>	赤字記載は主要アクションの強化を図る戦略業務



1-1. 2024年度の活動状況(主要アクション:9/13)

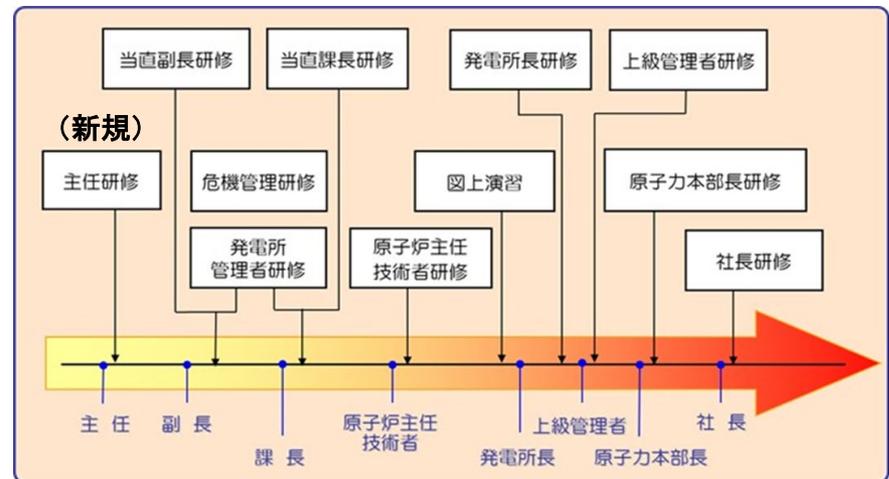
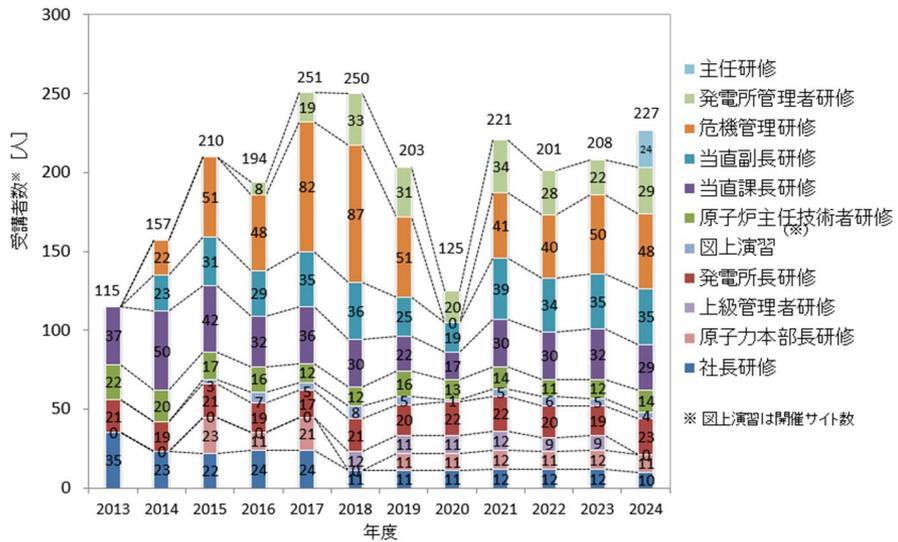
10年戦略 主要アクション	2024年度活動状況 (表中の“●”は2024年度重点活動関連を示す)	備考
(9)重要課題への迅速・適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ○重要な共通課題の抽出と支援 (PPRM(プラントパフォーマンスレビュー会議)を開催し、PR情報(SOER(重要運転経験報告書)分析情報)について、FAR(追加対策要)比率の高い“リスクマネジメント”に対し新たに重要課題に設定・支援することとした。SR定期連絡・訪問、TCP活動の周知等の支援を継続。) ○福島第一原子力発電所(1F)処理水の安定的な本格放出に向けた支援 (4/5 (東電社長への最終レビュー結果報告)で完了。) ○運転期間長期化への対応 (保全技術基盤活動を通じた支援) ○炉内構造物等点検評価ガイドライン(GL)関連対応 (4件のGL発行他) 	赤字記載は主要アクションの強化を図る戦略業務

連絡代表者(SR)と専門分野の連携



1-1. 2024年度の活動状況(主要アクション: 10/13)

10年戦略 主要アクション	2024年度活動状況 (表中の“●”は2024年度重点活動関連を示す)	備考
(10)リーダーシップ研修・セミナー等の充実と実施	<ul style="list-style-type: none"> ○リーダーシップ研修・セミナー等の実施 (CEO研修、CNO研修、発電所長研修等の10コースに加え、2024年度より、管理職候補者を対象とした主任研修を新設) ○SAT(体系的教育訓練)の定着化に向けた支援(発電所ごとの課題支援(発電所キャラバン)、教育訓練の実効性向上支援(テカトム社を講師に招いたワークショップ、SAT基礎研修、INPO講演会等通じた支援)) ○教育訓練がトランの整備 (産業界の教育訓練の最新状況を踏まえて適宜改定) 	赤字記載は主要アクションの強化を図る戦略業務



研修参加者実績 (人)			
2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
221	201	208	227



1-1. 2024年度の活動状況(主要アクション: 11/13)

10年戦略 主要アクション	2024年度活動状況 (表中の“●”は2024年度重点活動関連を示す)	備考
(11)自主規制組織としての基盤確立	<ul style="list-style-type: none"> ○中長期的な人材確保（事業者への人材要請等） ○職員の能力向上と適正配置（新卒職員の早期戦力化に向けた育成プログラムの改善検討・実施、職員向け研修等） ○組織文化と知見・経験の継承（ナレッジマネジメントの効果的実施、新規配属者・新卒職員向け東電川崎センター視察/1F視察等） ○トップ対話等による自主規制の浸透（新規転入者14名、全GL(グループ・リーダー)24名を対象に理事長対話を実施） ○職員の意識調査（3年毎：前回意識調査結果への対応状況フォローとして、2024年度内部統制/QMS内部監査で状況を確認） ○DX(デジタル変革)等の活用による新たな業務モデルの検討・確立、実施計画の策定（業務の効率化、業務モデルの再構築） ○緊急時における事業者支援、対外機関への情報発信等（九州電力川内原子力発電所の緊急時対応訓練にWANO-TC(東京センター)と共に参加） 	赤字記載は主要アクションの強化を図る戦略業務



1-1. 2024年度の活動状況(主要アクション: 12/13)

10年戦略 主要アクション	2024年度活動状況 (表中の“●”は2024年度重点活動関連を示す)	備考
(12)国内外関係機関・組織との連携と信頼関係の構築など	<ul style="list-style-type: none">○ATENA、電中研(NRRC)他の国内関係機関との連携強化、産業界が抱える重大かつ緊急性を要する課題解決○WANO、INPO(米国原子力発電事業者協会)他の国際機関との一層の交流・連携強化、互惠関係の深化○NRA(原子力規制委員会)とのコミュニケーションの継続、自主規制の取り組みの理解の深化に向けた活動を展開○一般社会を含めたステークホルダーへの情報発信(公開HPへの情報掲載、JANSI On-Line配信: 年4回)	

(日米CNO-リーダーシップ会議)

- ・2024年11月21日～22日にCNO12名(米国側4名、日本側8名)が参加し、福島第一原子力発電所事故の教訓及び発電所のパフォーマンス改善への取り組みについて議論し、交流した。
- ・なお、INPOとJANSI主催の日米CNOリーダーシップ会議は、日本と米国で交互に開催されており、2024年度は日本において開催された。



議論・交流の様子



1-1. 2024年度の活動状況(主要アクション: 13/13)

10年戦略 主要アクション	2024年度活動状況 (表中の“●”は2024年度重点活動関連を示す)	備考
(13)長期停止発電所への支援及び再稼働支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業者が安全に発電所の再稼働を果たすための支援 (女川2号機及び島根2号機関連：発電所ウォークダウン及びフォローアップとしての定期訪問、再稼働支援としての駐在員派遣、再稼働支援報告書取り纏め・会員HPへ掲載) (柏崎刈羽関連：現場確認及び意見交換) (全体：再稼働ガイドラインの改定) 	至近に対処すべき重要課題
(14)原子燃料サイクル施設への支援	○原子燃料サイクル施設の安全・安定操業に向けての支援（分野ごとの個別対応は終了し、通常のTCPによる支援活動の枠組みで支援を継続することとした。）	同上

1-2.2024年度の活動状況:主要アクションと切り分けて実施する業務

業務	2024年度活動状況 (表中の“●”は2024年度重点活動関連を示す)	備考
A.運転責任者判定試験・認定業務等	<ul style="list-style-type: none"> ○運転責任者判定試験・認定業務の実施(年4回)と継続的改善 ○特記事項（女性運転員意見交換会） <ul style="list-style-type: none"> ・原子力委員会岡田委員から、「原子力職場で働く女性運転員、技術者の現状を知りたい」との要望を受け、JANSI女性運転員意見交換会の参加者(未参加者も可能)と意見交換を実施（7/17）。 ・東北電力本店で意見交換、再稼働直後の女川発電所で現場視察を実施（12/17-18）。 	

1-3. 2024年度の活動状況(その他)

1. 10年戦略の修正

- 1月度理事会において10年戦略の修正及び次年度以降の活動の方向性等について確認頂いた。
- その後も、10年戦略の修正等について活動計画確認会議を開催し、事業者実務クラスと意見交換を行った。
- 3月度理事会において10年戦略の重要指標及び主要アクションに係る活動計画等について修正案を審議・了承頂いた。

2. 組織運営の基盤に関わる2024年度活動状況

- (1) 新しい働き方の推進
- (2) セルフアセスメントの実施
- (3) 内部監査の実施

3. 定款に関わる会議体の開催状況

- (1) 社員総会 1回
- (2) 理事会 5回
- (3) 準特別会員代表者会議 1回
- (4) 国内アドバイザー委員会 2回
- (5) 国際アドバイザー委員会 1回



2. 法人の概況

(1)社員の異動

	2024年3月31日	増減	2025年3月31日
社員数	128社	なし	128社

(2)職員の状況

	2024年3月31日	増減	2025年3月31日
職員数（*）	187名	5名増	192名

（*）:常勤理事、執行役員を含む



(参考1) JANSI アニュアルカンファレンスの開催

JANSIは、活動成果の報告とともに、今後の活動をより実効性のあるものとするため、国内外の原子力関係者のご意見をいただく「**JANSI アニュアルカンファレンス**」を開催している。**(電気新聞に特集記事(2面見開き)を掲載)**

過去3年間の開催実績

開催日	2023.3.15	2024.3.13	2025.3.12
参加者数	約600名 (会場参加及びリモート参加で実施)	約500名 (会場参加及びリモート参加で実施)	約500名 (会場参加及びリモート参加で実施)
パネル ディス カッション	<p>「設立10年を踏まえた今後のJANSI活動への期待、展望」</p> <p>(座長) 山下ゆかり：日本エネルギー経済研究所常務理事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロバート シュッツ：エナジー・ノースウェスト社 CEO ・山口彰：原子力安全研究協会理事、東京大学名誉教授 ・ビクター マクリー：ニュークリアー・コンサルティング社 主兼プリンシパル・オペレーティング・オフィサー元NRC (米国原子力規制委員会) 運営総局長 ・森望：関西電力株式会社代表取締役社長 ・ウィリアム エドワード ウェブスター Jr. : JANSI会長 ・山崎広美：JANSI理事長 	<p>「自主規制の深化と発展」</p> <p>(座長) 山本章夫：名古屋大学大学院工学研究科教授</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェフ ライアシュ：TVA (テネシー川流域開発公社) CEO、WANOアトランタセンター議長 ・山口裕幸：九州大学大学院人間環境学研究院教授 ・林欣吾：中部電力株式会社代表取締役社長 ・山崎広美：JANSI理事長 	<p>「原子力発電所要員の技量の維持・向上について」</p> <p>(座長) 高橋 信：東北大学大学院工学研究科教授</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金子修一：原子力規制庁次長兼原子力安全人材育成センター所長 ・アマンド・ドンジェス：米国原子力発電事業者協会 (INPO) SVP ・リック・リブラ：サザン・ニュークリア社 EVP&CNO ・エティエンヌ・デュティユ：フランス電力会社 (EDF) CNO 原子力発電部長 ・樋口康二郎：東北電力株式会社取締役社長 ・加藤功：JANSI理事長



(参考2) 各種コンテンツを用いた各層への発信例(1/2)

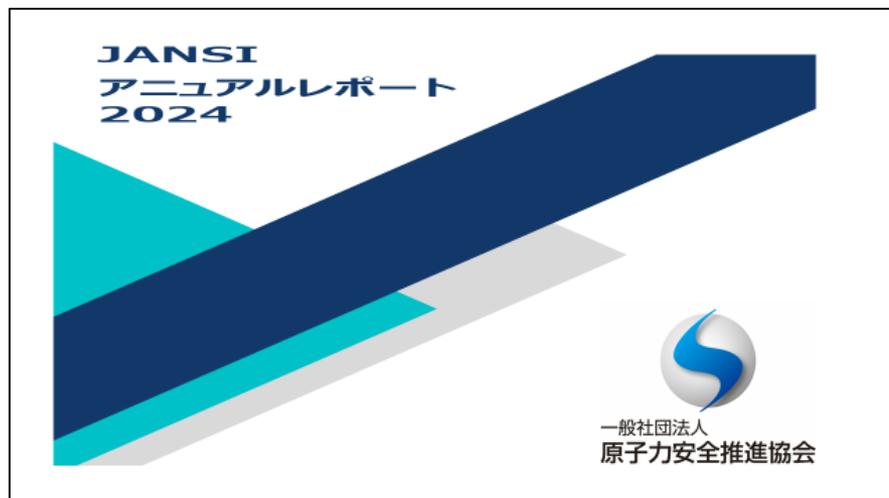
「JANSI ACTIVITIES」の発行(6回/年)



「JANSI ACTIVITIES」は、特別会員の皆さまの、JANSI全体の活動状況についての把握・理解に役立っていただくことを目的として発行。

(会員HPへ掲載)

「JANSIアニュアルレポート 2024」発行



(公開HPへ掲載) 日本語版、英語版

(会員HPへ掲載)

一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute



(参考2) 各種コンテンツを用いた各層への発信例(2/2)

19

「JANSI On-Line」の発行(4回/年)



「JANSI On-Line」は、JANSI経営全般について、理事会、理事長に提言を行う「国内アドバイザー委員会」および「国際アドバイザー委員会」の委員を対象に、JANSIのトピックスおよび日本の原子力発電所の状況などの情報を継続的に発信することにより、JANSI活動への提言、支援をよりの確なものすることを目的として発行。

(2024年7月号より公開HPへ掲載)

